

平成22年度 全国結核対策推進会議に参加して



青森県八戸保健所

所長 宮川 隆美

はじめに

平成23年3月3日の第16回国際結核セミナー及び、昨年5月29日に急逝された青木正和先生記念フォーラムに引き続き、翌日の3月4日には平成22年度全国結核対策推進会議が開催されました。その概要を報告いたします。

会議の概要

1) 講演：厚生労働省結核感染症課の水野智美課長補佐は「結核に関する特定感染症予防指針の改正について」の中で、必要な結核病床の確保と患者中心の医療提供体制を再構築・DOTSの推進・具体的な目標、を改正内容とした方向性を示されました。

2) 報告：①国立保健医療科学院の笈淳夫氏は「結核病床の施設状況に関する全国サンプリング訪問調査」の中間報告をされました。「必ずしも十分とは言えない施設も少なくなく、基準の設定や適用に関しては財政的支援等が必要である」と結ばれました。

②結核研究所保健看護学科の永田容子氏は、「院内DOTS業務量調査」を発表されました。目的の一つは良好な患者支援の在り方を明らかにし、診療報酬上の評価に資することであり、現在調査結果を集計分析中とのことでした。

③結核予防会複十字病院の吉山崇氏は、結核予防指針に沿った結核対策の実施状況を全国の自治体に対してアンケート調査を行い、結果報告をされました。「各自治体の状況にはかなりのばらつきがあり、今後結核対策の指標の検討が必要である」と結ばれました。

3) シンポジウム：「今日の多剤耐性結核（MDR）最新情報」、座長は結核研究所副所長の下内昭氏でした。

まず①結核研究所抗酸菌レファレンス部の御手洗聡氏が「薬剤耐性全国調査」の中で、「既治療耐性率は多剤耐性結核で有意に減少していた」との発表が印象的でした。

続いて②国立国際医療研究センター研究所の切替照雄氏が「遺伝子診断最新情報」として迅速遺伝子診断

法であるラインプローブアッセイを紹介されました。

次に③結核予防会複十字病院の吉山崇氏が薬剤耐性菌対策として近年開発された「リネザリド」の評価について発表されました。

さらに④「外科的治療」として、同じく複十字病院の白石裕治氏がMDR-TB、XDR-TBに対する外科的治療法について話されました。中でもVATSによる低侵襲手術が近年行われるようになり、MDR-TBでもこの手術が出来ることを強調しておられました。

最後に⑤東京大学大学院地域看護学の島村珠枝氏が、MDR患者5名に対して行った調査結果を基に、「医療従事者としてできることはなにか」ということを中心に発表されました。

おわりに

急激な時代の変化により十分な対応が困難になりつつある結核医療に対して、新たな医療体制の構築が求められるようになってきました。このたびの会議は結核の特定感染症予防指針の改正を柱に、新たな体制作りのための様々な取り組みが報告され、今後の結核医療体制の方向と課題が示されるなど政策的色彩の濃い会議でありました。そのためか、結核医療従事者に加えて保健所職員等行政関係者も多数参加していました。出席して一番印象に残ったのは、「結核の治療に必要な医療体制が構築出来ない」という現場の悲痛な叫びでした。単なる診療報酬の改定に留まらず、また結核のみならず、「不採算部門の医療をどうするのか」という大きな課題に取り組む必要性を感じました。



壇上のシンポジスト6名